

作成番号:0319

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2025-319

内容:衝突被害軽減ブレーキ(AEB)は歩行者の事故重傷度を軽減する

出典:Incorporating multi-path risk assessment in transformer-based pedestrian crossing action prediction.

Accident; analysis and prevention. 2025 Jun;215;108002. doi: 10.1016/j.aap.2025.108002.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40133014/>

2023 年の WHO の報告では、交通事故による年間死亡者数は 119 万人(人口 10 万人あたり 15 人)で、そのうち約 30%は歩行者および自転車利用者が占めている。衝突被害軽減ブレーキ(AEB)は衝突事故の回避や被害の軽減を支援する装置で、国内では、2021 年 11 月から国産新型車にその搭載が義務化されている。今回、AEB は事故発生時に歩行者の重傷度を軽減する可能性があるかを東京大学公衆衛生学の研究者らが調査して、その詳細は「Accident Analysis & Prevention」に 5 月 10 日掲載された。

2023 年の衝突事故後 30 日以内に死亡した 3,263 人のうち、1,211 人(37%)が歩行者であり、500 人(15%)が自転車利用者だった。対象車種はオプションで AEB システムを搭載するベストセラーの 6 車種とした。調査期間中、4,131 人の歩行者と 6,659 人の自転車利用者が対象 6 車種のいずれかで負傷事故に巻き込まれていた。歩行者 4,131 人のうち、2,760 人が AEB 搭載車、1,371 人が AEB 非搭載車と衝突事故を起こしていた。歩行者の「死亡または重傷」の割合は、AEB 搭載車で 16.7%(461/2,760)非搭載車で 21.3%(292/1,371)だった。自転車利用者については、この割合は、AEB 搭載車、非搭載車でそれぞれ 8.0%(350/4,392)、8.1%(184/2,267)だった。次に、AEB の有無と事故による負傷重傷度(死亡または重傷)との関連を検討した結果、歩行者では AEB と「死亡または重傷」との関連性を示す調整オッズ比は 0.80(95%信頼区間 0.64~0.996)であり、衝突車両に AEB が搭載されていた場合、歩行者の「死亡または重傷」のオッズが 20%低減することが示された。一方自転車利用者では、この調整オッズ比は 0.91(95%信頼区間 0.74~1.14)であり、AEB と「死亡または重傷」の間に有意な関連は認められなかった。

